

坂城町内遺跡発掘調査報告書2005

—平成17年度試掘・立会い調査報告書—

2006.3

坂城町教育委員会

坂城町内遺跡発掘調査報告書2005

—平成17年度試掘・立会い調査報告書—

2006.3

坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成17年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）
担当者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）
協力者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、田中 浩江、千野 美樹、萩野 れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成
教 育 長 大橋 幸文（～平成17年6月30日）
柳澤 哲（平成17年7月1日～）
生涯学習課長 塚田 好一
文化財係長 助川 朋広（前出）
文化財係 宮入 正代
朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻 ケン子、田中 浩江、千野 美樹、萩野 れい子（以上、臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川が行い、天田、萩野がこれを補助した。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

目 次

例 言

凡 例

第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第 1 節 地理的環境	1
第 2 節 歴史的環境	1
第 II 章 試掘調査の結果	6
1 上五明条里水田址14	6
2 出浦遺跡 1	8
3 中町遺跡 3	9
4 込山D遺跡 I	10
5 南条遺跡群 3	12
6 上五明条里水田址15	14
7 小野沢遺跡 2	15
8 上五明条里水田址16	17
9 御堂川古墳群 前山支群 4	19
10 南条遺跡群 4	21
11 四ツ屋遺跡群10	23
12 廻り目遺跡 2	25
第 III 章 立会い調査の結果	27
報告書抄録	

第I章 坂城町の遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接地点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ッ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的に触れておきたい。（括弧内の数字は3、4ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す。）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には後期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の出土が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土器の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置付けられた（若林

1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。内部施設に千曲川水系最大の横穴式石室を持ち、室全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡(1-8)が注目される。青木下遺跡は現在整理中である。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群(8)とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡(8-1)、上町遺跡(8-2)、東町遺跡(8-3)、宮上遺跡(8-5)、北川原遺跡(8-6)、豊饒堂遺跡(20)、開畝遺跡(21)で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡(32)があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺(54)に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年(嘉保元)(1094)に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡があるが城自体は現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚(55)をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡(53)がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置付けられている(若林 1999)。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置付けられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木(61)に置かれたが、明和4年(1767)に焼失し、その後、安永8年(1799)には中之条に代官所(67)が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献(五十音順・敬称略)

- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡―第1次調査報告』 1979『開畝製鉄遺跡―第2次調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅱ』 1996『東奥遺跡』
1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2000『開畝遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966『長野県史料部保地遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 敏ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編(一)
- 柳沢 亮 1998『第5節 開畝遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』(財)長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』『第11章 観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』(財)長野県埋蔵文化財センター



試掘調査位置図 (1:25,000)

第Ⅱ章 試掘調査の結果

1 上五明条里水田址¹⁾

所在地 坂城町大字上五明263-2他
事業主体 近藤 登喜尾
事業名 集合住宅建設事業
調査期間 平成17年5月10日
面積 985㎡ (74㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町の千曲川左岸の網掛、上五明、上平に所在する千曲川沖積地に所在する遺跡で、「坂城町遺跡分布図」によると平安時代～中世にかけての条里水田址に位置づけられている。本遺跡群内では、今まで13回の試掘調査が実施された経過があるが、本遺跡は単純に条里水田址という遺跡ではなく、過去の調査において集落址も検出されたこともあり、遺跡の立地等によって遺跡の性格に違いが見られる遺跡である事が判明している。

今回、本遺跡内において近藤登喜尾氏による集合住宅の建設事業が計画されたことから、開発対象地内の遺跡の様相を確認するために、試掘調査を実施することとなった。

調査結果

開発対象地は、本遺跡群内において発掘調査や試掘調査をした地点の中で、最北東部に位置している。本調査地点では、遺跡の存在の有無も判然としない状況であったため、試掘調査を行うことが原因者との協議により決定した。試掘調査は対象地域内において、トレンチを2箇所設定して、遺構の有無を確認した。



試掘調査位置図 (1:2500)

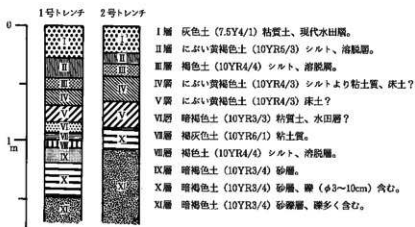


トレンチ掘削状況 (南東より)

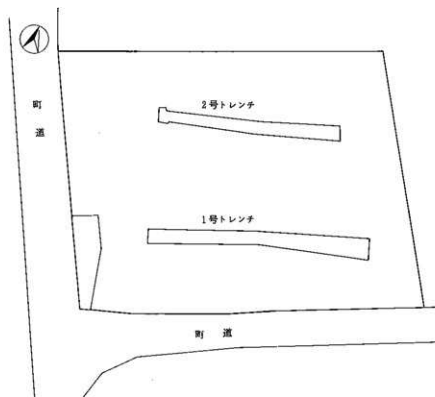


トレンチ完掘状況 (西より)

調査対象地は最近まで水田として利用されていた場所で、基本層序のとおりに第I層が現代水田層、その下面に水田溶脱層、さらにその下面にシルト層が確認され、約1mのところで砂層の堆積が確認された。この砂層は千曲川の氾濫によって堆積したものと考えられ、断面観察の結果、本対象地には遺跡が存在しないことが判明した。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:400)

2 いでうらいせき 出浦遺跡 1

所在地 板城町大字上平字出浦263-2他
 事業主体 柳竹内製作所
 事業名 駐車場建設
 調査期間 平成17年6月28日
 面積 1253㎡ (124㎡)
 担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

出浦遺跡は、板城町の千曲川左岸である上平地区の出浦沢川によって形成された遺跡とされ、「板城町遺跡分布図」によると、縄文時代～平安時代にかけての集落址とされている。本遺跡内では、過去に発掘調査された経緯がなく、遺跡の詳細について不明な状況であった。

今回、柳竹内製作所による駐車場建設が計画され、遺跡の状況確認のため、試掘調査を実施して、遺跡の有無を確認することとなった。

調査結果

開発対象地内の東西方向にトレンチを2箇所設定し、遺構の有無について確認を行った。

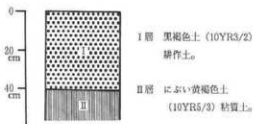
調査の結果、1号トレンチ及び2号トレンチにおいて、遺構・遺物は検出されなかった。



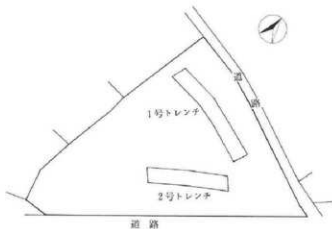
試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ検出状況 (西より)



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:800)

3 なかまち いせき 中町遺跡 3

所在地 坂城町大字南条字越田739-3
 事業主体 坂田 ひろみ
 事業名 集合住宅建設
 調査期間 平成17年7月19日
 面積 158㎡ (20㎡)
 担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

南条遺跡群は坂城町の南条に所在する遺跡群で、本遺跡群内には東裏遺跡、御殿裏遺跡、百々目利遺跡、中町遺跡、田町遺跡、廻り目遺跡、塚田遺跡、青木下遺跡といった複数の遺跡が総括されている。中町遺跡は弥生時代～平安時代に所属する集落址とされている。

今回、坂田ひろみ氏による集合住宅建設が計画されたため、試掘調査を実施して遺跡の有無を確認した。

調査結果

調査は建物が建設される予定部分に1箇所のトレンチを設定して、遺跡の状況を確認した。

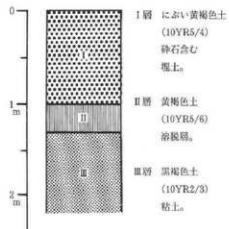
調査の結果、対象地には遺構・遺物は検出されなかった。



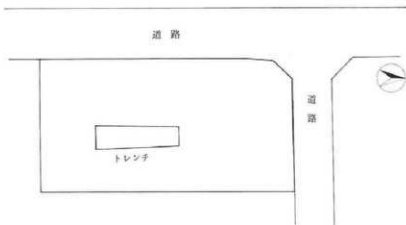
試掘調査位置図 (1 : 2500)



トレンチ検出状況 (南より)



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 400)

4 こみやまでいせいせき 込山D遺跡 I

所在地 坂城町大字坂城6416-4他
事業主体 株式会社 八十二銀行
事業名 店舗建設
調査期間 平成17年8月3日
平成17年8月4日
面積 1485㎡ (54㎡)
担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1:2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山D遺跡は坂城町大字坂城の日名沢川によって形成された扇状地の扇端部付近に位置する集落址で、込山遺跡群に総括される遺跡である。込山遺跡群は、坂城町坂城の中心市街地に所在し、込山A遺跡～込山E遺跡まで命名されている。「坂城町遺跡分布図」によると込山D遺跡は、縄文時代～平安時代の集落址とされており、以前坂城駅拡張の際、縄文時代晩期の遮光器土偶が採集されるなど、当該期の集落の存在も予想される遺跡である。

また、本遺跡群内には、現在の坂城小学校周辺には、古代寺院である込山庵寺が所在し、古代の集落址といった本遺跡群の性格だけではなく、古代寺院といった宗教的な様相をあわせもつ重要な遺跡群である。更に、本遺跡群内には近世の北国街道という当時の幹線道路が所在し、近世の遺構等も存在している可能性が極めて高い地域である。

今回、株式会社八十二銀行による銀行店舗の建替えといった計画が予定され、遺跡の性格及び遺跡の状況確認のために、試掘調査を実施することとなった。



トレンチ掘削状況 (東より)



トレンチ検出状況 (北東より)

調査の結果

調査対象地は八十二銀行の駐車場として使用されている銀行敷地内で、試掘調査の実施及び、調査の方法・期間においても、多くの

障害のある場所であり、銀行側からの要望として、調査期間は短く、調査範囲についてもできる限り最小限の調査として欲しいということであった。

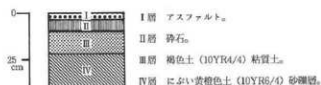
このような制約の中で、調査地点は駐車場という事もあり、対象地の一番東側（奥）にてトレンチを設定して、遺構の有無等を確認する事とした。

遺構の検出面は地表下約20～30cmの黄褐色の砂礫層に行い、堅穴住居址等の落ち込みのプランを検出し、対象地内に遺構が存在している事が判明した。しかし、㈱八十二銀行の駐車場となる以前、本対象地内に所在した建物を壊した際に、攪乱された場所もあり、対象地の正確な様相は今回の試掘調査では、把握する事はできなかった。

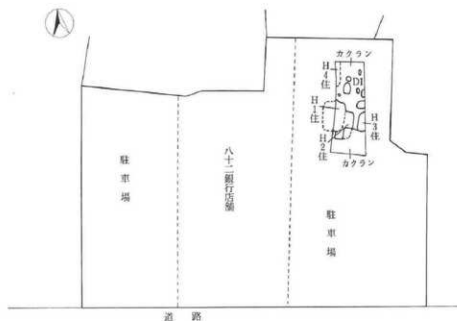
結論的にいうと、本対象地は制約があり最小限度の試掘面積ではあったが、遺跡が存在することが判明した。原因者の㈱八十二銀行と遺跡の保護について協議を行った結果、遺跡の破壊が余儀なくされたため、記録保存を前提とした発掘調査を実施して、遺跡の保護を図る事となった。



トレンチ基本層序（東より）



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：500）

5 みなみじょう いせきぐん 南条遺跡群3

所在地	坂城町大字南条字笹平262-1他
事業主体	上原けさと
事業名	宅地造成
調査期間	平成17年8月5日～ 平成17年8月8日
面積	1057㎡ (141㎡)
担当者	助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

南条遺跡群は坂城町大字南条に所在する遺跡群で、東裏遺跡、御殿裏遺跡、中町遺跡、田町遺跡、廻り目遺跡、青木下遺跡、塚田遺跡を総括している遺跡群である。これらの遺跡は千曲川右岸の千曲川沖積地に所在し、千曲川によって形成された自然堤防や後背湿地に立地している。本遺跡群内では、過去の発掘調査では、祭祀遺跡として注目される青木下遺跡や古代の集落址としての東裏遺跡、弥生時代後期の集落址とされる塚田遺跡が発掘調査されている。これらの状況から、南条遺跡群は古代の複合遺跡であり、集落址や生産遺跡が所在すると考えられている。また、平成元年度に作成された「坂城町遺跡分布図」によると南条遺跡群は、弥生時代～平安時代までの集落址とされている。

今回、上原けさと氏による宅地造成事業が計画され、遺跡の状況確認のための試掘調査を実施する事となった。今回の対象地は古墳時代の祭祀遺跡として注目される青木下遺跡から南に約200mのところの位置している。

調査結果

調査は開発対象地に2箇所のトレンチを設定して遺跡の確認を行った。対象地は千曲川の自然堤防上と考えられる場所で、古代においても度重なる千曲川の氾濫による、砂層及



試掘調査位置図 (1:2500)



2号トレンチ検出状況 (西より)

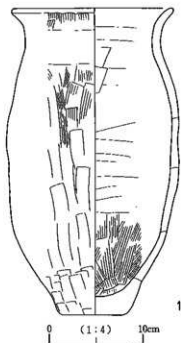


遺物出土状況 (北より)

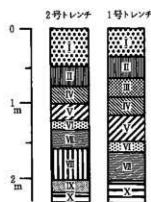
びシルト層の堆積が確認され、遺構の検出面も地中深くに見られた。調査の結果、1号トレンチ及び2号トレンチの両方から遺構の検出・遺物の出土が見られた。検出された遺構は、竪穴住居を中心に特殊遺構、土坑址などであった。

2号トレンチの竪穴住居址から出土した土器から、検出された住居の所属年代は古墳時代後期と考えられ、今回の調査対象地の北側に所在する東裏遺跡や、青木下遺跡の集落が、本対象地まで続いている可能性も示されている。

今回の試掘調査によって検出された遺構は地中深くに所在するため、本事業による遺跡は工事によって破壊される事はないと考えられ、盛土保存ということで、遺跡を保護する事となった。

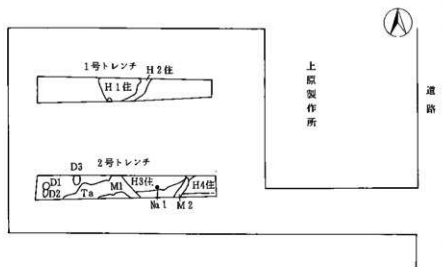


2号トレンチH3住出土土器実測図



- I層 盛土。
- II層 褐色土 (10YR4/1) 水田層。
- III層 灰黄褐色土 (10YR4/2) 砂質土。
- IV層 明褐色土 (7.5YR5/8) 砂質土。
- V層 ぶい黄褐色土 (10YR6/3) 粘質土。
- VI層 ぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘質土。
- VII層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、遺物包含層。
- VIII層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土、遺物包含層。
- IX層 褐色土 (10YR4/4) 遺物包含層。
- X層 黄褐色土 (10YR5/6) 遺物包含層。

基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:500)

6 上五明条里水田址15

かみごみようじようすいでんし

所在地 坂城町大字綱掛字下モ田292
 事業主体 山岸今朝男
 事業名 集合住宅建設事業
 調査期間 平成17年8月10日～
 平成17年8月11日
 面積 642㎡ (47㎡)
 担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1:2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は千曲川左岸の村上地区である上五明、綱掛、上平に所在する条里水田址とされている。本遺跡群内において過去の発掘調査から古代の集落址及び平安時代以降の条里水田址が検出されている。

今回、山岸今朝男氏の集合住宅建設が計画され、遺跡の状況を確認する必要が生じた。



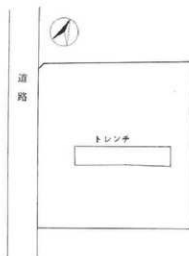
トレンチ検出状況 (西より)

調査の結果

調査対象地に1箇所のトレンチを設定して遺跡の状況を確認した。対象地には現代の水田層以下に明確な古代の水田層が確認されず、遺構が存在しない事が判明した。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:600)

7 おのざわいせき 小野沢遺跡 2

所在地 坂城町大字上平字小野沢1424-1
事業主体 山岸今朝男
事業名 集合住宅建設事業
調査期間 平成17年8月22日～
平成17年8月23日
面積 2340㎡ (90㎡)
担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

小野沢遺跡は坂城町大字上平に所在する小野沢川・出浦沢川によって形成された扇状地の扇央部付近に所在する遺跡である。平成元年度に作成された「坂城町遺跡分布図」によると、弥生時代～平安時代の集落址とされ、本道跡群内に福沢古墳群の御厨社古墳が所在している。御厨社古墳は、千曲川流域において最大規模の横穴式石室を持つ古墳である。

今回、山岸今朝男氏による集合住宅建設事業が計画され、遺跡の所在の有無を確認する必要性が生じたため、試掘調査を実施することとなった。

調査の結果

調査対象地は緩やかに東方向に傾斜する斜面にあたる。試掘トレンチは2箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺物・遺構の検出はなく、地表下約1 m50cmにて砂礫層の堆積が見られ、河川の影響により遺構が存在しないものと考えられた。更に、調査範囲が狭かった事もあり、集合住宅建設にかかる掘削工事に際し、立会い調査を行う事として試掘調査は終了した。



試掘調査位置図 (1:2500)



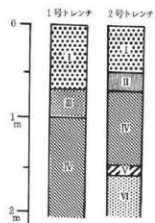
1号トレンチ掘削状況 (東より)



1号トレンチ検出状況 (西より)



2号トレンチ検出状況（南より）



I層 表土。

II層 褐色土 (10YR4/4) 砂質土。

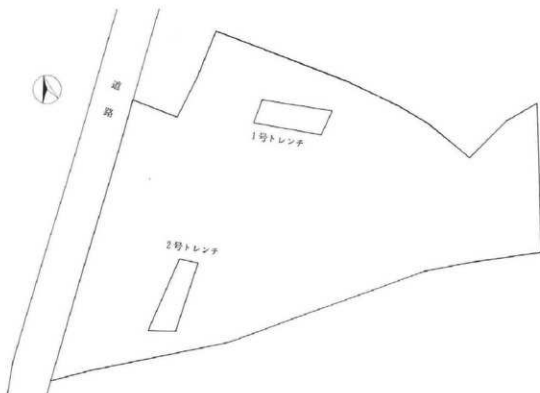
III層 におい黄褐色土 (10YR5/4) 粘質土。

IV層 におい黄褐色土 (10YR5/4) 砂礫土。

V層 褐色土 (10YR4/4) 粘質土。

VI層 におい黄褐色土 (10YR5/4) 砂礫層。

基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：600）

8 かみごみようじょうりすいでん し 上五明条里水田址16

所在地 坂城町大字網掛509-2他

事業主体 宮崎光明

事業名 集合住宅建設事業

調査期間 平成17年10月24日

面積 2214㎡ (183㎡)

担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は平成元年度作成された、「坂城町遺跡分布図」によると千曲川左岸の坂城町大字上五明、上平、網掛に所在する平安時代～中世にかけての条里水田址とされている。しかし、近年の試掘調査及び発掘調査によって、上五明地区、上平地区には古代の集落址も検出され、生産遺跡といった性格以外に集落址も存在している事が判明している。

今回、宮崎光明氏による集合住宅建設が計画された。坂城町教育委員会では遺跡の状況を確認する必要が生じたため、遺跡の所在の有無及びその性格を知ることを目的とした試掘調査を実施することとした。

調査の結果

集合住宅の建設は、既存の建物があった場所で行う予定であったが、既存の建物があった基礎部分には攪乱が著しい様子が判明したため、遺跡の破壊のないと思われる畑地を中心に試掘調査を行う事として試掘トレンチを2箇所設定した。2号トレンチは集合住宅の建設される予定地に設定した。

1号トレンチではかつて水田に利用されていたため、水田層が確認され、その下面には直ぐに千曲川の氾濫の際に堆積したと考えられる氾濫砂層が見られ、2号トレンチはシルト層の下にてやはり1号トレンチ同様な氾濫砂層が検出され、千曲川の影響を多分に受け、



試掘調査位置図 (1 : 2500)

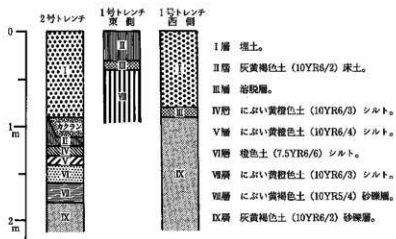


1号トレンチ掘削状況 (東より)

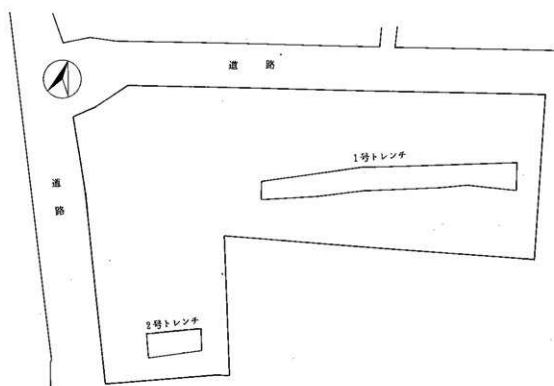


2号トレンチ検出状況 (東より)

本対象地では、遺構が存在しない
 事実が判明した。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:600)

9 みどうがわ こふんぐん まえやましけん 御堂川古墳群 前山支群 4

所在地 坂城町大字中之条1850-64

事業主体 葛尾組合

事業名 霊園拡張事業

調査期間 平成17年10月27日

面積 2937㎡ (96㎡)

担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

御堂川古墳群は坂城町中之条の御堂川によって形成された扇状地の扇頂部に所在し、山口支群、山崎支群、前山支群、東平支群、山田支群に分けられている古墳群である。その中でも一番大きな支群が前山支群で、前山支群には現在14基の古墳の存在が確認されている。本古墳群は古墳時代後期に位置づけられると考えられているが、東平支群では上信越自動車道建設によって、(財)長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を行い、中期古墳が発見されていることも留意が必要な古墳群である。しかし、この発掘調査された東平古墳群は、位置的にも御堂川古墳群から離れているため、御堂川古墳群に入れることを含め、名称等再検討が必要な古墳である。

本前山支群では昭和48・49年に『坂城町誌』の編纂にあたり前山1号墳の学術調査が実施され、6世紀後半から8世紀の出土物が検出されている。これらの状況から何度かにわたって追跡が実施されたと考えられている。また、葛尾組合の敷地建設によって消滅してしまったが、前山4号墳からは、鉄製の直刀が出土している。更に平成13年度には高場建設に係る試掘調査が行われ、平成16年度には工業団地建設に係る試掘調査を実施されているが、いずれも遺構・遺物の検出はなかった経過がある。

今回、葛尾組合の霊園拡張が計画されるこ



試掘調査位置図 (1:2500)



前山支群前山1号墳 (南西より)



1号トレンチ検出状況 (東より)

ととなり、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の結果

今回の開発計画は、古墳群が集中する位置と以前破壊されてしまった4号墳が位置していた場所の中間付近にあたり、比較的傾斜のきつい場所である。

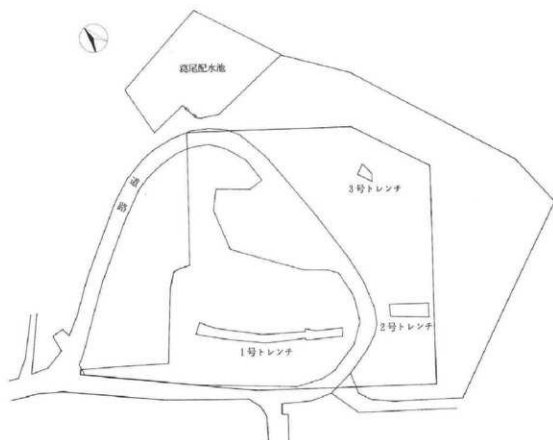
試掘調査はトレンチを3箇所設定して、遺構の有無の確認を行った。調査の結果、遺構及び遺物の出土は確認されなかった。



トレンチ完掘状況（南東より）



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：400）

みなみじょう いせきぐん
10 南条遺跡群 4

所在地 坂城町大字南条字青木下290-1
 事業主体 赤池 忠一
 事業名 集合住宅建設
 調査期間 平成17年11月10日
 面積 1240㎡ (50㎡)
 担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

南条遺跡群は、「坂城町遺跡分布図」によると千曲川右岸地域の南条地区の鼠、新地等に広がる遺跡群で、東裏遺跡、御殿裏遺跡、百々目遺跡、中町遺跡、田町遺跡、廻り目遺跡、塚田遺跡、青木下遺跡からなる遺跡群である。

東裏遺跡は昭和58年度及び平成4年度に発掘調査を実施し、縄文時代から平安時代の集落址とされる遺跡で、隣接する青木下遺跡との関係から古墳時代の玉造工房址が検出されている。また、円面硯の出土や礎石の用いられた建物址の検出などから古代においても重要な遺跡と考えられている。また、青木下遺跡は平成4年度及び8・9年度発掘調査が実施され、縄文時代～平安時代の生産遺跡、集落址、祭祀遺跡とされている。本遺跡内での古墳時代の祭祀の状況は、全国に希に見る状況として全国的に注目を集めている。この祭祀の状況を少し記しておく、古墳時代の後期の祭祀遺跡で、出土遺物から6世紀～7世紀に位置づけられ、6世紀中ごろまでは多くの遺物をブロック状に集積しているのに対し、それ以降になると環状や馬蹄形状に土器が集積し、最後に行われたと考えられる祭祀遺構は環状を呈し、土器が正位に配列されていたのである。このような状況は、全国でも類例がなく、今後の祭祀の状況を研究する上で貴重な資料となっている。



トレンチ検出状況 (西より)



トレンチ基本層序 (南より)

今回、赤池忠一氏による集合住宅建設が計画され、試掘調査を実施して対象地の遺跡の有無について確認を行うこととなった。今回の対象地は前述した青木下遺跡において、祭祀遺構が検出された場所から直線距離で100m北に所在する。

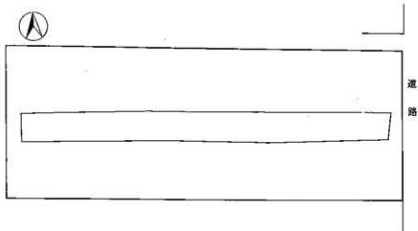
調査の結果

対象地において試掘トレンチを1箇所設定し遺構の有無を確認した。対象地では祭祀遺構の検出はなく、平成4年度発掘調査した青木下遺跡の状況と同じく、地表下約1mにて古代の水田層の検出が見られた。本水田層は、令和4(888)年に起きたとされる千曲川の大洪水によって、埋没しているもので、洪水氾濫砂層によって被覆されていた。

今回の対象地は盛土を施し、集合住宅を建設する計画であるため、基本的には遺構の破壊はないものと考えられるため、立会い調査として対応する事となった。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:300)

11 四ツ屋遺跡群10

所在地 坂城町大字坂城字鎌倉6986-1

事業主体 滝沢 聖子

事業名 グループホーム建設事業

調査期間 平成17年11月14日

面積 1054㎡ (47㎡)

担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

四ツ屋遺跡群は、「坂城町遺跡分布図」によると坂城地区の四ツ屋、御所沢に広がる縄文時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。本遺跡群は御堂川や入田川によって形成された扇状地の扇尖部及び扇端部に立地している。

本遺跡群内では今まで宅地造成や集合住宅建設に伴う合計9回の試掘調査が実施されている。

今までの試掘調査の成果の概要を示しておきたい。平成10年度に実施した宅地造成に伴う試掘調査では、遺物包含層から磨耗の著しい縄文土器が僅少量出土し、縄文時代の遺跡がより高い場所（東側）に想定された。平成13年度実施された福祉施設建設に伴う試掘調査では、遺構及び遺物の検出がなく、遺跡が存在していないことが判明した。平成13年度実施したコミュニティ消防センター建設に伴う試掘調査では、時期不明の僅少量の土器が出土し、中世頃と考えられる石鉢の出土があり、遺構では判然としない落ち込みの検出があった。平成14年度の集合住宅建設に伴う試掘調査では、土坑址とピットの検出があり、僅少量の土器の出土があった。また、同年実施の集合住宅建設に伴う試掘調査では、掘立柱建物址とピットの検出があった。また同年の店舗建設や農道建設に伴う試掘調査では、遺構・遺物の検出が見られなかった。平成15



試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ掘削状況 (東より)



2号トレンチ作業状況 (東より)

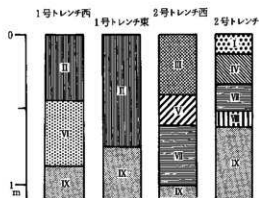
年度実施の集合住宅建設にかかる試掘調査では、堅穴住居址2棟、ビットの検出があった。平成16年度実施の集合住宅建設事業の試掘調査では、遺構・遺物の出土が見られなかった。以上のとおり、本遺跡群は広範囲に広がる集落址とされているが、今まで行ってきた試掘調査によってその様相は判然としない遺跡であるというのが実情である。

今回、滝沢聖子氏によるグループホーム建設が計画され、試掘調査を実施して遺跡の有無について確認を行った。

調査の結果

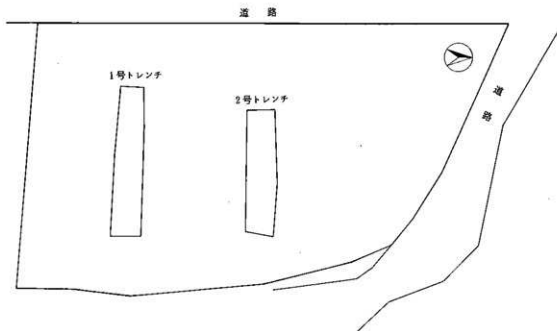
対象地域内に2箇所の試掘トレンチを設定して遺構・遺物の有無を確認することとした。

対象地は造成が行われており、基本層序は表土(盛土)層の下面に、にぶい黄褐色の砂礫層が堆積しており、試掘調査はIX層上面を遺構検出面と判断して、遺構の有無を確認したが、遺構及び遺物は検出されなかった。



- I層 砕石層。
- II層 褐色土 (10YR4/4) 粘質土、盛土。
- III層 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘質土、盛土。
- IV層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘質土、盛土。
- V層 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘質土、盛土。
- VI層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土。
- VII層 暗褐色土 (10YR3/3) 砂礫層。
- VIII層 褐色土 (10YR4/4) 砂礫層。
- IX層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂礫層、φ5-10cm含む。

基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:200)

12 まわりめいせき 廻り目遺跡 2

所在地 坂城町大字南条6314-1他
 事業主体 坂城町建設課
 事業名 道路改良事業
 調査期間 平成18年1月27日～
 平成18年2月2日
 面積 1380㎡ (219㎡)
 担当者 助川 朋広

遺跡の環境と調査にいたる経緯

廻り目遺跡は、千曲川の右岸の南条地区に所在する遺跡で、「坂城町遺跡分布図」によると弥生時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。

平成15年度に今回同様の道路改良事業に伴い、試掘調査が実施され、遺構・遺物の検出はなく、未だ遺跡範囲等の不明な遺跡である。

今回も坂城町建設課による道路改良事業が原因となり、平成15年度実施場所のより北側の用地買収の進んだ場所を工事発注することになり、前回同様、遺跡の状況を確認する必要が生じ、試掘調査を実施する事となった。

調査の結果

対象地は道路の拡張のため、現道に沿った調査対象地と道路新設箇所とに分けられる。道路拡張部分は、試掘調査を実施する上で、トレンチが設定できるところと、できないところがあり、バックホウの入られる場所を対象にトレンチを設定した。

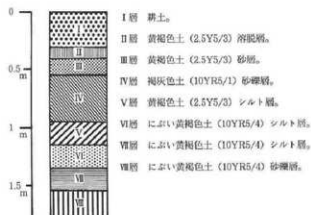
トレンチは用地買収が済んだ今年度工事発注予定箇所にて1号トレンチ～9号トレンチまで設定した。調査の結果平成15年度同様、砂礫層の検出があり、遺構・遺物が検出されなかった。



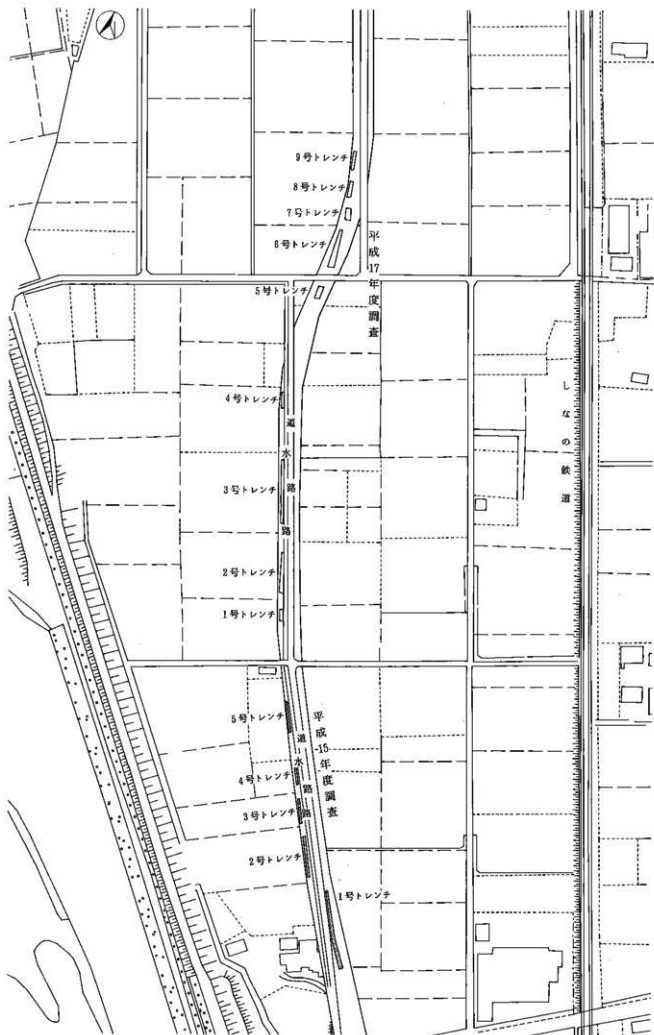
試掘調査位置図 (1:2500)



トレンチ完掘状況 (北より)



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 2000)

第三章 立会い調査の結果

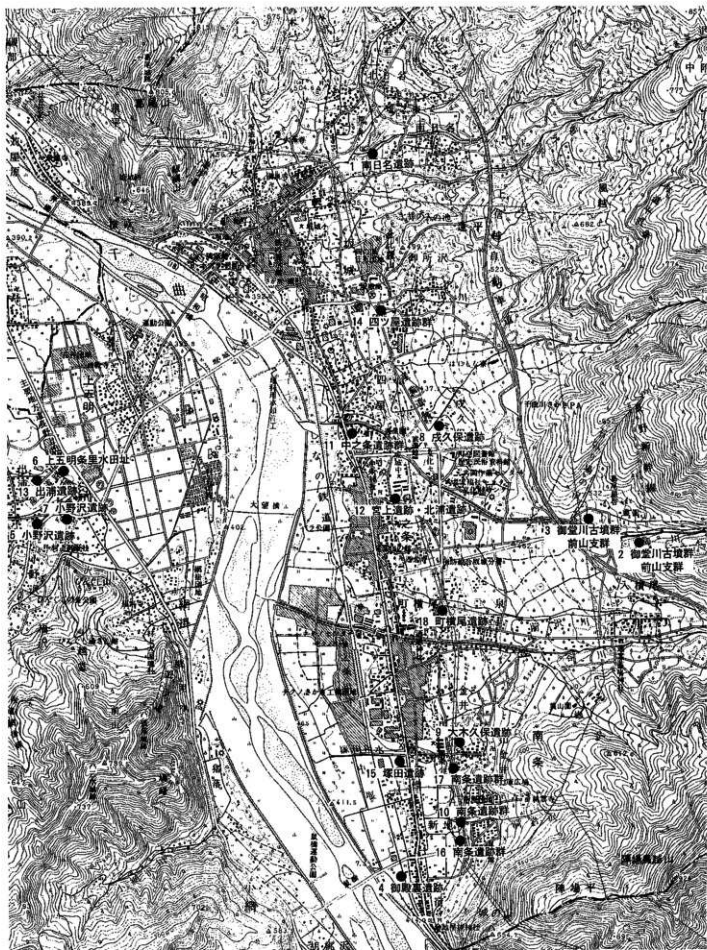
No	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積 (m ²)	調査期間
1	南日名遺跡	千曲建設事務所	坂城4426-2他	河川改修	1,350	H17年5月9日
2	御堂川古墳群前山支群	千曲建設事務所	中之条	河川改修	2,000	H17年5月19日
3	御堂川古墳群前山支群	坂城町土地開発公社	中之条	工業団地造成	18,886	H17年5月26日
4	御殿裏遺跡	上田水道管理事務所	南条字御殿裏	水道管敷設	65	H17年7月15日
5	小野沢遺跡	千曲建設事務所	上平	交通安全	200	H17年7月19日
6	上五明条里水田址	柳竹内製作所	上平436他	工場建設	2,232	H17年8月19日
7	小野沢遺跡	山岸 今朝男	上平字小野沢1424-1	集合住宅建設	2,340	H17年9月8日、 25日
8	戌久保遺跡	長野県総務部	坂城戌久保8986-2	職員宿舍解体	873	H17年9月25日
9	大木久保遺跡	上田水道管理事務所	南条	水道管敷設	59	H17年9月25日
10	南条遺跡群	千曲建設事務所	南条	砂防事業(河川改修)	100	H17年10月13日
11	中之条遺跡群	力石加工株式会社	中之条逆木2580	駐車場建設	1,029	H17年10月13日
12	宮上遺跡・北浦遺跡	坂城町都市・下水道課	中之条	下水道管敷設	2,277	H17年11月11日、 2月9日
13	出浦遺跡	長野県総務部	上平字出浦240	職員宿舍解体	424	H17年11月25日
14	四ツ屋遺跡群	滝沢 聖子	坂城町坂城	グループホーム建設	1,054	H17年12月7日
15	塚田遺跡	日精炭粉工業㈱	南条6720地	工場建設	443	H18年1月11日、 16日
16	南条遺跡群	赤池 忠一	南条290-1	集合住宅建設	1,240	H18年1月12日、 17日、24日
17	南条遺跡群	坂城町建設課	南条新地	道路改良	1,600	H18年1月24日
18	町横尾遺跡	坂城町教育委員会	南条4668-1	教員住宅解体	565	H18年2月9日



7. 小野沢遺跡立会い調査状況(南より)



10. 南条遺跡群立会い調査状況(北より)



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

報告書抄録

ふりがな	さかきちやうないせきはくつちやうさほうこくしょ
書名	板城町内遺跡発掘調査報告書 2005
副書名	平成17年度試掘・立会い調査報告書
巻次	
シリーズ名	板城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第26集
編著者名	助川 明広
編集機関	板城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡板城町大字中之条2222 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2006年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上五明条里水田址14	板城町大字上五明	20521		36°27'17"	138°10'10"	2005年5月10日	74	集合住宅建設
出浦遺跡1	板城町大字上平	20521		36°26'59"	138°09'52"	2005年6月28日	124	駐車場造成
中町遺跡3	板城町大字南条	20521		36°25'38"	138°11'50"	2005年7月19日	20	集合住宅建設
込山D遺跡1	板城町大字板城	20521		36°27'44"	138°10'56"	2005年8月4日	54	銀行店舗建設
南条遺跡群3	板城町大字南条	20521		36°25'35"	138°11'40"	2005年8月5日 2005年8月8日	141	宅地造成
上五明条里水田址15	板城町大字上五明	20521		36°27'04"	138°10'15"	2005年8月10日 2005年8月11日	47	集合住宅建設
小野沢遺跡2	板城町大字上平	20521		36°26'53"	138°10'01"	2005年8月22日 2005年8月23日	90	集合住宅建設
上五明条里水田址16	板城町大字網掛	20521		36°26'42"	138°10'24"	2005年10月24日	183	集合住宅建設
御堂川古墳群前山支群4	板城町大字中之条	20521		36°26'58"	138°12'31"	2005年10月27日	96	墓園拡張
南条遺跡群4	板城町大字南条	20521		36°25'43"	138°11'45"	2006年11月10日	68	集合住宅建設
四ツ屋遺跡群10	板城町大字板城	20521		36°27'38"	138°11'24"	2006年11月14日	47	グループホーム建設
廻り目遺跡2	板城町大字南条	20521		36°27'51"	138°11'20"	2006年1月27日 2006年2月2日	219	道路改良事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上五明条里水田址14	生産遺跡、集落址	奈良～平安	なし	なし	
出浦遺跡1	集落址	弥生～平安	なし	なし	
中町遺跡3	集落址	弥生～平安	なし	なし	
込山D遺跡1	集落址	縄文～平安	竪穴住居址、土坑址、ピット	土師器・須恵器(奈良～平安)	
南条遺跡群3	集落址	縄文～平安	竪穴住居址、土坑址	土師器(古墳)	
上五明条里水田址15	生産遺跡、集落址	奈良～近世	なし	なし	
小野沢遺跡2	集落址	弥生～平安	なし	なし	
上五明条里水田址16	生産遺跡、集落址	奈良～平安	なし	なし	
御堂川古墳群前山支群4	古墳	古墳	なし	なし	
南条遺跡群4	集落址	縄文～平安	なし	なし	
四ツ屋遺跡群10	集落址	縄文～平安	なし	なし	
廻り目遺跡2	集落址	弥生～平安	なし	なし	

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』(概報)	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戊久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2005』(本書)	2006

発行日 2006年3月30日

編集者 坂城町教育委員会
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222
TEL 0268 (82) 1109

印刷者 信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号
TEL 026 (243) 2105

